

広島県代表 井上正芳さん 威風堂々の発表

「元気な牛を飼って酪農安定経営」

西日本酪農青年女性会議(会長 砂子拓也)は、西日本各地から酪友など

百名の参加を得て四十八回目を数える酪農発表大会を開催した。

冒頭、砂子会長は参加者を前に、発表大会の開会を宣言し、経営発表の部、意見体験発表の部それぞれ二名による発表があった。

経営発表の部では、広酪メンバーズクラブ所属の井上正芳さんが威風堂々と自らの経営状況を発表されたものの、残念ながら僅差で

全国大会への出場権を逃された。井上

さんは、口惜しさ残しつつ、今回、大勢の酪友を前に発表した経験は、自らにとって大変貴重なものとなったと安堵の様子であった。

経営発表の部では、松永毅さん(山口県)の「受け継いで、その先へ」が、意見体験の部では、安富由美子さんの「最高のパートナー」が選ばれ、七月十三日北海道札幌市で開催の全国大会へと駒を進められた。

以下に発表内容等の概要を紹介する。

【経営発表の部】

■「元気な牛を飼って酪農安定経営」

井上正芳さん(広島県安芸高田市)

平成十年に中国四国酪農대학교を卒業後、実家に戻り就農。平成二十四年に父からの経営移譲により経営者に。

平成二十八年には経産牛平均乳量が一万四千四百八十三kg、また生涯乳量が広島県で一位、中四国で三位、全国九十二位となっ

た長命連産に選ばれる十四歳の牛も輩出。地域との交流や経営の工夫、就農してから実践している飼養管理のこだわりを発表された。

■「受け継いで、その先へ」

松永毅さん(山口県防府市)

防府市で酪農を営む松永氏は酪農学園大学卒業、ヘルパー経験の後、実家に戻り平成十三年に就農。三十歳の時に牧場移転し、七十頭規模のフリーストール牛舎の新設を決意。資金調達のため、酪農以外の仕事も行い、平成二十二年四月より七十頭のフリーストール牛舎での経営を始めた。経営が軌道にのるまでの取組み、現在の酪農経営状況、今後の展望を発表された。

【意見・体験発表の部】

■「最高のパートナー」

安富由美子さん(岡山県岡山市)

サラリーマン家庭育ち、旅行会社に就職。高校の同級生であったご主人が北海道から戻られ再会、平成十一年に結婚され酪農に関わることに……。ご主人が結婚一年前から始めた自家製アイス部門の仕事を担った。その後、酪農・アイス製造・販売を経験し消費者等との交流を深められる。

今後の展望は、平成三十年にロボット搾乳機械を導入、新商品の取り扱い

開始などに向けての夢を発表された。

■「これが私の親孝行」

永市明仁さん(愛媛県西条市)

愛媛県西条市の酪農を営む実家を出た後、大阪で役者等の仕事をしていたが、二十八歳の時、逡巡の末、親孝行の気持ちで芽生え二十八歳の時、地元へ戻り就農。平成二十五年に経営移譲を受けた。酪農知識ゼロからの苦労や、なかなか結婚できなかったこと、地域とのつながり、自給飼料の取組み等の苦労や体験が発表された。

■審査公表

経営発表の部では井上さんが収益性、経営の安定性、飼養管理技術水準では優れてはいたものの、資源循環型酪農・堆肥処理や地域への貢献、将来の発展性等の点などの総合的な面からの評価で松永さんが全国大会に駒を進められた。

松永さんの経産牛一頭当りの平均乳量九千kgに対して、井上さんは一万kgと高い成績にあり、井上さんに対しては、飼養管理の工夫などに及ぶ質問が集中した。

意見体験の部では安富さんがこれまでの周囲との交流やアイス製造販売に係る活動、今後の将来性を評価され選考された。

